

# 上村和子 活動レポート

こぶしの木 No.96 9月議会報告号

2023年11月9日発行



## 国立市平和都市宣言をかみしめる

——この世に、「正しい戦争」などというものはありません。

地球上に、もうこれ以上の血を流してはなりません。

私たちは、あらためてこれまでの戦争と暴力のなかにたおれた多くのひとびとの悲しみと苦しみを思い、自由で平和な世界の実現のために力をつくします。

(国立市平和都市宣言より)

3年前からのコロナパンデミックの危機が収まりきらない昨年2月、ロシアがウクライナを侵攻、すさまじい空爆の様子が報道され、暮らしにも物価高騰、電気代高騰などの影響が出ています。政府は軍事費に莫大なお金をつぎ込み他国を攻撃できる体制を整え始め、「新しい戦前」との流行語も出てきました。

そして、今年2023年10月、ハマスによる攻撃の報復として、イスラエルによるパレスチナ自治区のガザに対する容赦ない攻撃が始まりました。

この間、憎しみの連鎖で拡大していく「戦争の正体」をこれでもかというほどつきつけられています。

私は今改めて国立市平和都市宣言を声を大にして掲げ、全ての戦争の即事停戦を強く訴え、そして、国内においては先人が戦争の教訓として誓った「戦争放棄」をつたった憲法9条を守らなければと思っています。

## 関東大震災100年、二度と同じ過ちを繰り返さないために

## 今こそ、国立から、平和の声を発信していきたい！

差別を禁じた人権、平和、多様性の条例と  
ソーシャルインクルージョンを掲げて

国立市議会議員 上村和子

関東大震災は巨大

火災により10万5000人も死者・行方不明者を出し、9割は焼死でした。

その中で、警察からの情報が契機となって、流言蜚語が飛び交い、それを信じた、軍隊、警察や、地域住民によって組織された「自警団」が罪のない多くの朝鮮人、中国人、社会主義者を虐殺する事件が起きました。

そして震災による巨大火災は空襲を連想させ、時の政府や軍隊は、住民やメディアをまきこんで、防災から防空演習、法整備、組織体制整備など戦争への準備に向かいました。

その流れの中で、931年9月18日に満州事変が起き、日本は戦争への道を突き進むことになりました。

私たちは冷静にしっかり考え、防災がいつのまにか戦争への準備にからめとられていかないように行動することが求められていると考えます。

## 子どもの人権を守る議員活動に全力

東京都子ども基本条例は子どもの権利条約を反映した素晴らしい条例です。子どもを誰一人とりのこさず、子どもを権利の主体とみなし、差別せず、子どもの意見表明に応え、子どもの最善の利益を最優先することをうたっています。

私は、凍結されたままの朝鮮学校に対する補助金を、東京都子ども基本条例に則して早急に復活させるための学習会にずっと参加してきました。

行政が特定のマイノリティに属することも私たちをその属性を理由に排除することは「官制ヘイト」であり、社会の差別、偏見を助長し、ヘイトクライム(憎悪による暴力)を招くおそれがあります。マイノリティ集団の子どもたちが安心して生きられる地域社会を大人たちが力を合わせて本気でつくる時代が到来したと私は思います。



5月に緊急仮移植された、子どもたちの思い出いっぱいの子の樹木は、厳しい夏を越し、秋を迎えて、本移植を待っています。(2023.11.4 説明会で)

## フルインクルーシブ教育

日本ではインクルーシブ教育を「特別支援教育」と曲解し、その誤りを訂正しない状態で、誰もが一緒に学べる学級づくりはなされないままです。

**上村** フルインクルーシブ教育を実現

するには通常学級の包摂力を高める必要があるが、子どもも先生も大変な様子だ。通常学級の課題は何か？

**橋本祐幸教育部長** 課題は、

教員が時間的にも精神的にも余裕のない状態で指導に当たっていることが多いという点にある。一つの授業の中でもしなければならぬこと、してはならないことが多数存在する中で、一人で35人近くの子どもたちを指導していくことに、かなりストレスを感じているのではないかと思う。

**上村** 学校内が、特別支援学級、特別支援教室、不登校の子どもたちのための校内別室登校のように細分化されているが、分ける程さらに分けなければならなくなるという悪循環。今の時代は、福祉と同様、包括的・包摂的・総合的な教育支援が求められている時代。どのような学校をつくりたいのか。

**教育部長** 今後はフルインクルーシブ

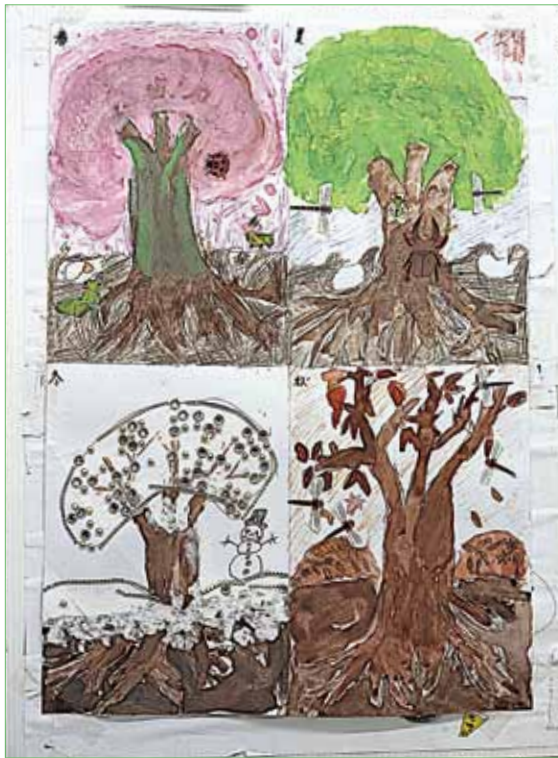
教育の理念に基づいて、共に学び、共に育つことを目指していくので、まずは通常学級の環境を整備し、より多くの児童生徒が共に学ぶことを選択できるようにしていきたい。当面は個別支援の場も選択できるようにしながら取り組みを前に進めていきたい。

同じ場で学ぶということをおし、共生社会の一員としての資質・能力を、子どもたちが自分たちの力で、自然な形で身に付けていくような姿を目指していきたい。

## 環境政策

**上村** 環境政策は、脱炭素社会に向けての計画指標2050年にゼロカーボンを実現するために、2030年度の温室効果ガス削減目標値をどこに置けるかが重要な議論になっている。8月には国立市で62%の削減目標が可能という専門家2人の話を、市長、副市長、担当課長に聞いてもらう勉強会が開かれた。2030年の削減目標をどのように設定するのか市のビジョンを問う。

削減目標が可能という専門家2人の話を、市長、副市長、担当課長に聞いてもらう勉強会が開かれた。2030年の削減目標をどのように設定するのか市のビジョンを問う。



**黒澤重徳生活環境部長** 8月の勉強会

の先生とは引き続き意見交換しながら、市の地球温暖化対策実行計画の策定に当たっては、ご意見を参考にしていきたい。市として最大限の取り組みによる最大限の削減目標を検討、設定していきたい。

## 第二小学校の樹木保存

**上村** 国立市に残っている大きな木ができるだけ大切に保存していくことが地球温暖化や脱炭素社会に向けて極めて重要であると指摘してきたが、二小の伐採予定だった木を保存するための市民プロジェクトと市が協定を結ぶ決断をしたことを評価する。背景を問う。

**教育部長** プロジェクトの責任、費用負担で事業を行うという皆様の熱意

を感じ、また既存樹木をできるだけ残したいという理念に共感するところが非常にあったので、二小のマスタープランが示す「自然とふれあい豊かな心を育てる」の具現化、「樹木や芝生を大切にし四季折々の自然が感じられる環境」の整備、加えて子どもたちがSDGsに関してより理解を深め、環境教育の一助とすることを目的に協定を締結する運びとなった。

**上村** 二小の樹木保存には保存を願う子どもたちの活動がある。各議員に子どもや保護者から要望書が届けられている。二小のお子さんに議会で読み上げることを了解していただき、このような絵(上図)を描いていただいた。小学4年生の子どもが積極的に木を残そうと動いている、その思いを大人たちはしっかりと心にとめておかねばならない。子どもボランティアとしてということ、その文章を読み上げる。

私は、木を残せてとってもらえています。でも大人が子供の気持ちを聞いてくれたのに、そのせいで大人が争う姿は見たくはない、悲しいし、不安に思うし、その話し合いが正解なのかなどと思うし、争わずに解決してほしいです。まず、子供の意見も聞いてほしいです。

あと木があるとうれしいのは、日陰ができるし、涼しくて、学校の玄関まで行くときも、教室の中も、体育の時

間も涼しくて最高だからです。私はまぶしいのが病気で苦手なので、木下はまぶしくなくて、安心して外にいれます。  
危ないからどうかしてほしいというその声を聞いて、せっかくだと救えた木の命をまた失いたくないし、その木たち

にもほかにできること、そして役立つことがあるからこそ、その木その木に大切な命があるから、春はきれいな桜が咲き、夏には涼しい日陰ができ、秋にはきれいな枯れ葉や紅葉などが見えて、春夏秋冬、いろんなきれいな木を見られるから、木は残したいです。木

を一旦どこかへ置いて校舎ができたから、木を校舎に戻ってきて木を植えてほしいです。もし全部植えられなくても、残りの木をチップにするのではなく、残りの木を国立のどこかに植えて、二小の森をつくってほしいです。

### 2022年度決算特別委員会から

## コロナ禍への取り組みを評価し「認定」職員がリカバリーできる職場づくりも提案

10月2日から2022年度歳入歳出決算についての審議が行われ、上村は認定しました。長引くコロナ禍の中でも、国立市はきめ細かに動き、市民に寄り添う市役所であろうと努力したことを評価しました。

### 職員のメンタル、「根本的取り組みが必要」と監査委員意見

一方で、全国的に見て、メンタル不調でダウンする労働者が、公務員は民間より比率的にも多いという実態が出てきました。既に国も重大な課題として指摘しています。ただでさえ、地方自治体の業務量がふくらんでいる中で、自治体労働者には、コロナ禍への対応や各種交付金の事務など次々と仕事押し寄せました。

見には、「根本的な取り組みが必要」との記載がありました。

### 職員が元気に働けることが市民のセーフティネット

10月初め、私は「リカバリーの学校@くにたち」(眞山舎主催、公民館と当事者団体が協力して開催)の学習会に参加しました。公民館地下ホールいっぱい参加者で、こういう場を多くの人々が求めていることを実感しました。当事者が語るリカバリーに学ぶことが大切だと思いました。決算委員会では、この先駆的な取り組みを参考に、当事者である職員さんたちの話から始めるリカバリーできる職場づくりについて提案しました。

職員のメンタルについて、今回の決算委員会の監査委員による意見

に、今回

当局から検討したいとの回答がありました。

ソーシャルインクルージョンは市役所自体をそのような職場に変えていくことも大切です。人は宝。職員さんたちが元気に働けることが、市民の一番のセーフティネットになると考えています。

### 手話言語条例案、採択

#### コミュニケーションの世界が広がる

「国立市手話言語条例」が当事者参加の取り組みにより成立しました。審議した福祉保険委員会では手話通訳者を入れ、議員も、答える担当部も手話を入れながら質疑応答しました。これがあたりまえになっていくことが求められます。

手話がコミュニケーションの言語であることを条例で定めることは、「口でしゃべる」以外の「言語」を認めるということ、人と人とのコミュニケーションの世界が広がるような感動を覚えられました。

### 人権月間打合せで全生園を訪問

人権月間企画講演会(12月8日18時)開催打合せのため、10月半ば、全生園に国立ハンセン病資料館の内田博文館長と入居者の山内きみ江さんをお訪ねしました。お二人のお話は本当に素晴らしく、期待が高まりました。講演会では、内田館長の講演と併せて山内さんの映像が上映されます。



『きみ江さん—ハンセン病を生きて』(片野田 斉著/偕成社)

### PFAS汚染陳情／健康保険証存続陳情

#### 不採択になり残念!

多摩地域のPFAS汚染の原因を調査するための横田基地立ち入り調査などを求める陳情、マイナー保険証の義務化について慎重さを求める保険医からの陳情が、どちらも市民の生活に大きく影響する重要な問題ですが不採択になり、残念でした。

今期は議会の議員構成が変わり、従前なら採択されたと思われたが、情でした。不採択になりましたが、「水」と「医療」という、まさにいのちと健康に直結する問題であり、今後もしっかり問い続けていきます。

話題になっていく映画「福田村事件」を友人2人と妻、私の4人で観に行った。その友人達とは一緒に福田村事件フィールドワークに参加した仲だ。

私は精神しようがいを抱えて生きていく。マイノリティという点で、行商一行と同じだった。好きでしようがいを抱えたわけではないのに、いざしようがい者だとわかると、何かにつけ後ろ指をさされて生きてきた私には行商達が身分を隠しながら何が何でも生き延びたいという懸命な気持ち、画面越しにひしひしと伝わってきた。

映画を見終えて、「考えさせられた」という感想がレビューにもあるが、私は自分が殺される過程を考えさせられた。

行商一行が虐殺されていく様子を観て、私は「もし自分が将来マイノリティであることで殺されるなら、ガス室だろうか」とぼんやり観ていた。

映画の行商一行以外の登場人物が抱える生きづらさ、村の日常で起こる対人関係を始めたとしたトラブルによって発生するストレスが、個人では解決できずに行き場のない負の感情と化してマイノリティに対して集団で爆発する。

今の世間の風潮にとても似通っている。私は思う。

自己責任という言葉が重くのしかかる今の日本で、どれだけの人か、少数派の声

寄稿

映画「福田村事件」を観て

精神しようがい当事者が感じたこと。

夏目宮子

に耳を傾けてくれるのだろうか。皆自分のことではない、いいっぱいな世の中で、私の味方はどれだけのいるのだろうか。



映画の後

4人でご飯を食べながら映画の感想を話していたが、感想を求められても友人達に合わせて取り繕い、当たり障りのない感想を述べてしまった。

他者に取り繕い、本心を殺して多数派を演じる。これは私が差別され虐げられて生きてきた中で身につけた、たった一つの冴えたり方。

でも、それではダメなんだと最近思う。人は必ずどこかにマイノリティの側面を持つし、誰だかって辛いことはある。困っている事があるからと言って、その人が弱いことには決してならない。

辛さや困りごとをちゃんと発信でき、それを受け止める仕組みや世の中を作れるのは今が最後のチャンスだと思っている。

私は私なりのやり方で、辛さやしんどさ吐き出せる国立市、それを受け止めてくれる場所を作っていきたいと思う。

私が将来、多数派個人個人が抱えるやりきれない怒りに殺されない為に、

(なつめみやこ筆名 国立市在住)

活動日誌 (2023年8月~10月)

★=市議会関係

- 8月 14日 ★9月議会議案説明を受ける
15日 一人暮らしの高齢者の見守り支援の話し合いに参加
17日 新給食センターオープン記念式典に参加 / 二小樹木保存プロジェクト主催の説明会に参加
23日 人権企画に沖縄の視点を!の打ち合わせに参加
24~26日 長崎における原爆を考えるスタディツアー参加
28日 ★9月議会初日本会議
31日 校内居場所カフェ学習会に参加 (公民館とNHK学園共催)
9月 1, 4, 5日 ★一般質問 (上村は4日)
2日 多摩で子どもシェルターを作る!の学習会に参加
3日 「嫡出概念と婚外子差別法制度の撤廃を」学習会に参加
5日 ★総務文教委員会で二小の保存樹木視察 / 新教育委員候補者と面談
6日 ★総務文教委員会出席
7日 ★建設環境委員会傍聴 / 朝鮮学校に通う子どもたちに公的教育保障を立川の開催にむけと実行委員会との打ち合わせに参加
8日 ★福祉保険委員会をインターネット視聴
11日 人権月間に向けての沖縄についての勉強会に参加
12日 「ハムケ・共に」の人権月間企画についての話し合いに参加
13日 介護者不足についての国しよう協と市、社協との話し合いに参加
15日 ★最終本会議
18日 10月29日「ケニア、ガーナと日本つなぐ生命の輝き」打ち合わせに参加
19日 くにたちのフルインクルーシブ教育についての取材を受ける / コミュニティスクールについての市民相談

- 28日 車椅子の重度身体しようがいを持つ市民の相談を受ける / 立川の子どもの人権を考える学習会実行委員会参加
29日 ドキュメンタリー映画「沖縄、再び戦場へ」制作のための学習会参加
10月 1日 リカバリーの学校 @ くにたち学習会に参加 (公民館)
2, 3, 5, 6日 ★2022年度決算委員会
11日 国立市しようがいしゃ団体等連絡協議会の「国立市しようがいしゃ計画」見直しについての協議に参加
12日 人権月間企画についての打ち合わせに参加
13日 国しよう協の「介護をまちの産業に」についての話し合いに参加
16日 学校で起きたいじめ問題についての相談を受ける / 11月26日「多摩地域の水のPFAS汚染意見交換会」都民政策会議の打ち合わせに参加
19~20日 ★総務文教委視察 (豊橋市防災、岡崎市校内フリースクール)
20日 朝鮮学校に通う子どもたちに公的教育保障を求める講演会&シンポジウム・立川でシンポジストとして参加
21日 人権月間企画打合せで多摩全生園訪問
27日 かたつむりの劇「フルインクルーシブ教育って何!!」観劇

上村和子と市政を語ろう会

11月23日(木・休日)午後2時~4時

会場:「生きる権利を市民の手で!」の会事務所 (バス停「音高」向い)

12月1日から12月議会が始まります。上村和子が9月議会で取り組んださまざまな問題の報告と、12月議会にどんな問題が出されるのか、市内にどんな問題が起きているのか、話し合いたいと思います。ぜひお越しください。

連絡先

〒186-0003 国立市富士見台3-32-4 日商岩井マンション1110
☎090-1814-8371 fax 042-574-2646
E-mail:kazuko-kobushinoki@ezweb.ne.jp
https://ikiru-kenri.jp/ https://lit.link/kazukouemura

プロフィール 上村和子

1955年 長崎市生まれ / 1978~82年 長崎県立高校教諭
1985年~ 国立市に居住 / 1991年~ 三小PTA・1中PTA・国立高校PTAなど / 滝乃川学園非常勤職員
2023年4月~ 国立市議会議員。7期目。総務文教委員会所属。人権派議員として人権が守られるまちをめざし全力で務める。